

# 老舗のバトン 次代へ

河野電気（大分市）社長

## 南 公憲さん

**みなみ・きみのり** 1966年生まれ、別府市出身。鹿児島大文学部経済学科卒。90年に九州石油（現・エネオス）入社。需給管理や販売、財務などに携わった。2004年、河野電気入社。06年から現職。趣味は映画や音楽鑑賞。休日はロードバイクで汗を流す。

私たちの暮らしに欠かせない電気インフラ。河野電気（大分市）は1923（大正12）年「河野電機工業所」として創業した。かつてはモーター修理やポンプ工事を主に手掛け、現在は電気設備工事や配電盤製造などが主業務だ。

### 1～9番を打てる人材

社員の育成に力を入れている。2020年、若手技術者の技術力向上や意欲向上を目的に、社内の技能コンクールをスタート。制限時間内に課題に沿った電気工作物を作り、出来栄を評価する。

コンクール後、自信がついて格段に仕事への意欲が上がった社員もいるという。4代目の南公憲社長(55)は「野球のチームで例えると、4番打者だけ打てればいいというわけではない。1番から9番までヒットを打てる人材を育成したい」。会社というチームの総合力強化に向け意気込む。

これまで、ピーコンプラザグローバルタワー（別府市）や大分豊府高（大分市）、碩田学園（同）などの電気設備工事を担当してきた。20年7月、大分流通業務団地の（大分市）に配電盤の新工場が完成。敷地面積を3倍、生産能力を2倍にそれぞれ増やした。空調設備を整え、労働環境も整えた。「社員の声を聞きながらよりよい環境づくりを目指していく」

### 省エネ、省資源にも力

省エネ、省資源にも積極的に取り組む。16年、環境省が策定した環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証を受けた。省エネ推進や二酸化炭素排出量の削減といった基本方針に基づき、太



河野電気社長の南公憲さん＝大分市大分流通業務団地の同社配電盤事業部

陽光発電設備を設置し、発電した電力を社内でも有効活用。「今後、国連の持続可能な開発目標（SDGs）への自社の取り組みをPRしていきたい。どの取り組みが17項目のどれに当てはまるか、検証している最中。積極的に打ち出していく」という。

長年男性中心だった業界。近年は女性社員や女性技術者の活躍に伴い、育児休業制度を利用する社員が増えてきた。配偶者出産時の特別休暇制度などを設けた。18年は「大分市子育て支援中小企業」に選ばれ、今年に入ってからは男性社員の育児休業取得の実績もできた。

23年、創業100年を迎える。「電気は社会インフラの一つ。これからも支えていく使命がある。100年は通過点。120年、130年と会社がずっと続いていけるよう、体制を強化していきたい」。老舗のバトンを次世代にもつないでいく決意だ。

#### ◆企業プロフィール

- ・会社名 河野電気
- ・代表者名 南公憲社長
- ・従業員数 156人
- ・売上高 39億円（20年7月期）
- ・資本金 5千万円
- ・所在地 大分市田室町